

「四国銀行と百聞は一食にしかず」

株式会社四国銀行

人事部長 藤岡 宏健



はじめに、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大において罹患された皆様、影響を受けられた皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、日本のみならず全世界の一日も早い終息を切に願うものです。

改めまして、労務管理者協議会メンバーリレーの原稿執筆依頼を受けまして、大変僣越ではございますが、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

【これまでの変遷】

まずわたくしども四国銀行が平素は皆様方に大変お世話になっております。

わたくしどもの企業使命は「地域の金融ニーズに応え、社会の発展に貢献します」を具現化することです。今後も地域のみなさまとともにある金融機関として活動を進めてまいります。

そんな四国銀行に私は、平成6年に入行しました。当時はバブル崩壊後、最初の氷河期世代と言われた時代で、金融自由化の波が押し寄せる真っ只中にいたことを思い出します。

東京の大学に在学中も、「郷里に帰り仕事をしたい」、「できれば転勤は避けたい」等の想いが交錯していましたが、「人と話ができる仕事」「自身にできそうな仕事」を考え、当行に入行しました。今まで、27年間で、県外店舗を含めて数回転勤しましたが、今では転勤は人生の財産になっていますし、転勤に対する抵抗感は全くなくなりました。

理由は、それぞれの地域でそれぞれの文化に触れ、それぞれの地のおいしい食べ物と温かい方たちとの出会いが私の考え方を変えてくれました。ただし、転勤に伴う引越しは大の苦手です。わたしの銀行での転勤談と食の変遷をお話しさせていただきます。

最初の配属店は中央支店。勤務は2年しました。帯屋町商店街の中にある支店です。商店街のお客さまに懇意にいただき、銀行員として公私ともに思い出のある支店です。27年が経とうとする今でも、お声をか

けていただけるお客さまがいることは、私の財産です。

2店舗目は須崎東支店。勤務は3年しました。仕事も頑張りましたが沢山のお酒を飲んだ店でした。3店舗目は香川県の伏石支店。うどんとともに過ごした3年でした。プライベートではめでたく結婚をしました。4店舗目は東京事務所、花の都東京にもう少し居たかったのですが、在籍は1年で5店舗目として愛媛県の今治支店に赴任しました。タオルと造船の町で、瀬戸内の美味しい小魚とお酒が進んだ3年間でした。この頃に不摂生がたたり、痛風を発症。大好きなビールから焼酎へシフトが進みました。

今治支店から本部のお客さまサポート部（現コンサルティング部）、人事部と営業店を離れ2部で9年半の勤務でした。8店舗目は卸団地支店、9店舗目は伊野支店で合計4年、支店長をさせていただきました。大変でしたが自分自身の銀行員としての夢が実現できた4年間でした。今治支店から高知に戻って長いですが、その間も私の食道楽は続いておりました。

【コロナ禍を乗り越えて。。。】

銀行員としての転勤歴を振り返ると、仕事とともにお酒と食を追い求めた27年間であったと思います。人間それぞれにいろいろな幸せがあると思いますが、食べ物は人を幸せにしてくれると考えています。

「〇〇の〇〇がおいしい」「〇〇でしか食べられない〇〇がある」こんなフレーズを聞くと、兎に角、自分の足で行って食べてみたい。「百聞は一食にしかず」これが私のモットーでした。ところが、昨年からはまったこのコロナ禍。いろいろな制約を受け、自由が奪われた寂しい日々が続いています。

仕事の活力としてお酒と食を以前のように追い求めたいですが、今はしばしの我慢だと考えています。そして何よりもすべての人が笑顔で生活ができる日常が戻ってくることを願ってやみません。コロナ禍を乗り越え、全世界の安堵が戻ることを確信しております。